

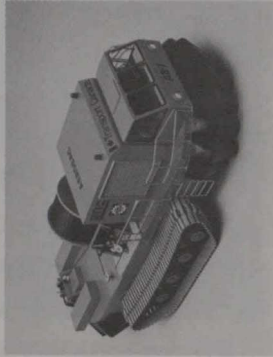
## 海・水運

カナダにおける最初の交通網は水路であつた。インディアンはかばの木の樹皮で作つたカヌーで、カナダ全土を縦横に走っている河川や湖を渡つた。そしてヨーロッパからやってきた探検家や毛皮商人も、河川を通じて内陸部へ入つていった。カナダの開拓はこうして始まつたのである。交通手段の発達した現在でも、大部分の貿易は外洋に面した港湾やセント・ローレンス川沿いの内陸港を通して行われている。

## 沿地でも時速三十キロ エアロバック

ホーバークラフトの原理と在来のキャタピラ車の推進システムを組み合わせて、沿地でも悪路でも時速三十キロで走れるという新型車の開発が、モントリオールのSNCグループとボンバルディエ社の手で進められている。

「エアロバック」と名づけられたこの車両は、モントリオールにある連邦運輸開発センターの構想にもとづいて開発されているもので、両社では八四年には原



貿易に大きく依存している国らしく、大型深水港が二十五、中小の港および政府の多目的埠頭が六百五十もあり、主要な港湾で扱われている貨物量は、年間三億トンにのぼる。船舶の大型化、コンテナ利用の増大にあわせて、港湾施設の拡充、整備も進んでいる。

一九五九年に開通したセント・ローレンス水路は、カナダおよび米国にとってきわめて重要な輸送路で、小麦、鉄鉱石、石炭、石油化学製品などのバラ荷、そして種々のコンテナ貨物がそこを上下して運ばれている。沿岸の都市はもちろん、はるか内陸部の各都市にとつても、セン

型車の製作にこぎつける予定。原型車は重量二十一トン(そのうち積載量が七トン)。カナダ北方の沿地や、起伏が多く、これまでの軌条車だと時速五、六キロしかでないところでも、路上と同じスピードで走れるという。また水陸両用車として、湖や川を渡ることもできる。

エアロバックのスカートはデコボコの地形の上を気圧を維持して浮上しながら進める新設計になっている。エア・クッションは車体の全長に及び、二基のファンがマルチ・チェーン・ドライブ(多重鎖伝導)によつてディーゼル主エンジンに連結され、二本の縦空孔から空気をスカートに送り込む仕組みになっている。

エアロバックが実現すれば、沿地や永久凍土地帯で人員を輸送したり、ちゃんとした道路のないところで電線を敷設したりするのに便利になるだろう。

ト・ローレンス水路は大きな活動源であり、生命線である。

そのほか、太平洋や大西洋沿岸の島々と本土との連絡にはフェリーが活躍し、また沿岸警備隊の砕氷船の助けを借りてタンカーや、北極諸島などの遠隔地に石油、建築資材、食糧、衣服、家具、日用品などを運ぶ貨物船が北部沿岸を航行している。

## 鉄道

船についてカナダで広く利用されている輸送手段は鉄道。前述したように、鉄道は連邦結成の初期、国内の一体化を図る重要な要素であつた。カナダには、現在、四十ほどの鉄道会社がある。

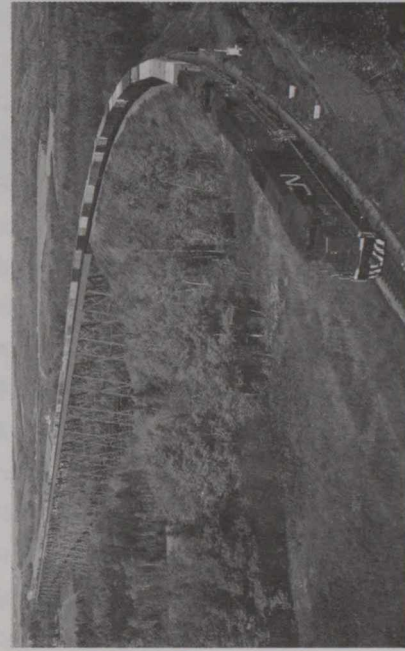
鉄道網は太平洋側のバンクーバーから大西洋側のハリファックスまで延々とつながり、そこから先は海路や空路で日本、中国、韓国、オーストラリアなどの環太平洋諸国や米国西岸、あるいは米国東部、イギリス、ヨーロッパ大陸、地中海と結んでいる。太平洋側では、BC州北東部から沿岸のプリンス・ルパートまで石炭を運び、そこから日本へ輸送するための大規模な鉄道・港湾施設が建設中。また大西洋側のハリファックス

び通信技術を出展・紹介し、関係者が技術革新、将来の輸送システム、人間に与えるその恩恵を論議する。さらに、これまでの交通輸送手段を展示するほか、各国が文化的催しものを行う。自動車レース、ボート・レース、エア・ショー、スポーツ競技、音楽祭なども予定されている。

港南端にあるコンテナ専用埠頭はカナダ最大で、面積が二十四ヘクタールもある。

鉄道輸送の九割は、カナダ太平洋鉄道とカナダ国鉄道によつて行われている。

カナダ国鉄道(CN)は国内最大の公共企業体で、全十州と北西準州に鉄道網をもつほか、道路輸送サービス、沿海汽船輸送サービス、ホテル・チェーン、通信サービスを運営し、それに子会社の国内・国際航空会社エア・カナダをもつ



複合輸送企業。カナダ太平洋鉄道(CP)は八州に鉄道網をもつ合資会社で、CNと同様、船舶、トラック、飛行機、ホテル、通信網を営業している複合企業体である。同社はまた、子会社を通じて、鉱業、石油および天然ガス、林産業、不動産、ホテル、鉄鋼業などに手広く投資している。